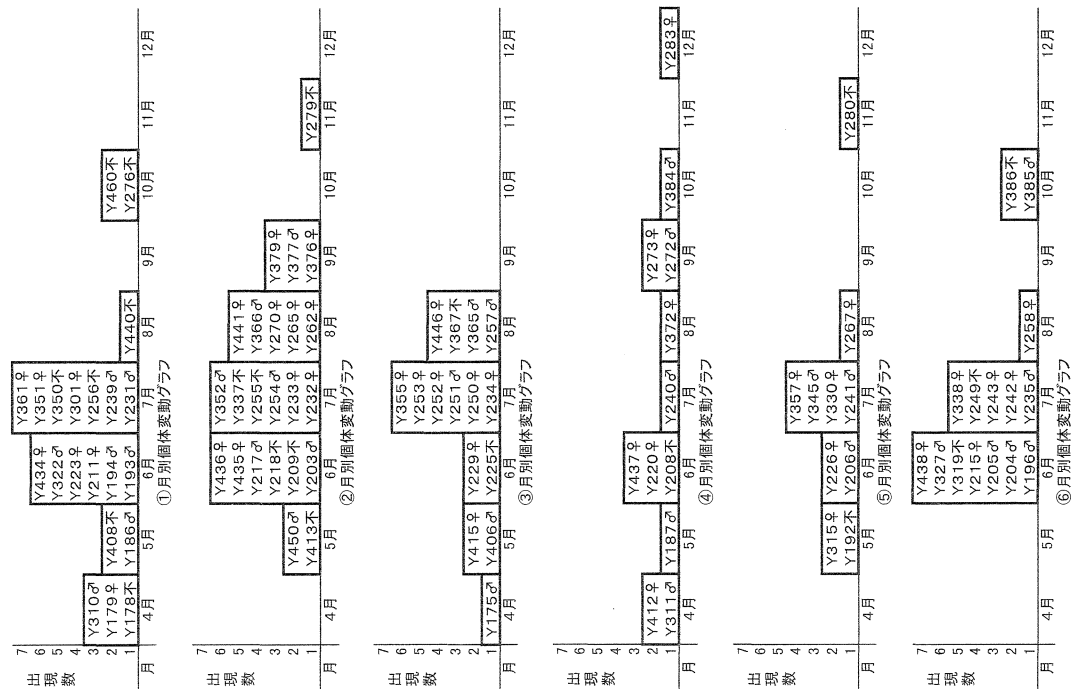
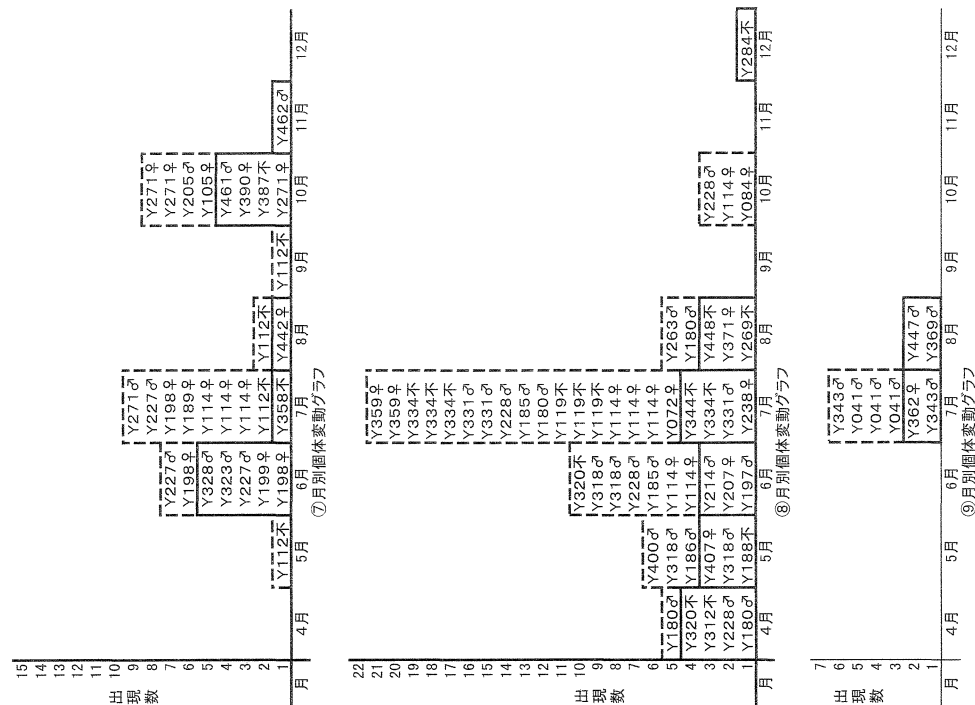


農道検証圃(①～⑥)月別個体変動グラフ



グラフー1

林道検証圃(⑦～⑨)月別個体変動グラフ



注)上記グラフで実線はマーキング個体を示し、破線は再捕獲個体を示す。

グラフー2

沖縄島の蝶類食草について － 1992 年からの記録から －

比 嘉 正 一

筆者は1992年から2004年までの13年間、蝶類の発生活史を明らかにするため、沖縄市知花にある東南植物楽園を中心に蝶類の観察を続けてきた。蝶の生活史の中で生息を裏付ける方法として、幼虫の食する植物を明らかにする必要がある。そのため、卵・幼虫が見つかった観察記録は、植物の同定とともに記録を報告してきた、文献2)～10)。※2004年度分は未発表。

観察の結果、8科40種の蝶類食草を記録することができた。沖縄はいろいろなルートで植物が多く持ち込まれ、植物園に勤務しているのにも関わらず、植物の同定は大変難しかった。本報告は食草の解説、幼生期の見つかる時期などについて、若干解説した。また保育園・小学校、あるいは蝶に興味があっていろいろな蝶の幼虫を野外で観察してみたい、採取した幼虫を飼育してみたい方々に参考になるようにした。

なお、蝶類の名前は琉球昆虫目録(2002)、植物の名前は琉球植物目録(1994)を参考にしたが、その他必要な文献を巻末にまとめた。

一般的に蝶類の幼虫が食する植物は「食草」と呼んでいるので、樹木であってもここでは「食草」として扱った。

アゲハチョウ科

1. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon nipponum*

(1) タブノキ *Persea thunbergii*

沖縄各地に普通に分布するクスノキ科の樹木で、小さな森や公園でもよく見かける。これまでの観察では新芽や新葉のでるタイミングに合わせて卵・幼虫が見つかった。大きな木の新芽で卵・幼虫を探すのは大変なので、林縁に生える木のわき芽や苗が観察しやすい。3月～4月にかけては簡単に卵・幼虫が見つかる。

(2) ヤブニッケイ *Cinnamomum pseudo-pedunculatum*

前種と同じクスノキ科の樹木で、やはり沖縄では普通に見ることができる。新芽や新葉のでる春から初夏に卵・幼虫が見つかった。

(3) セイロンニッケイ *Cinnamomum verum*

2000年に東南植物楽園が導入したクスノキ科の植物。ハーブガーデンに観賞用として植えられた。高さ1メートルほどの苗だが中齢から終齢幼虫まで10数匹もついていることがあった。葉が食され、苗が枯れるのをおそれて幼虫は取り除いたが、その後も成虫がやってきて産卵を繰り返したので、そのつど幼虫は取り除いた。かなり嗜好性の高い食草なのであろう。

(4) ジャワニッケイ *Cinnamomum tarmanni*

前種と同じクスノキ科の植物で、導入・栽培場所も同じ。嗜好性は前種が強いようで、本種

は数本あるが、幼虫が見つかったのは2株でした。

2. ミカドアゲハ *Graphium doson albidum*

(1) ギョクラン (ギンコウボク) *Michelia alba*

モクレン科の観賞用樹木。沖縄ではまだ民間の庭に広く栽培されてなくて、主に公園等に植えられていることが多い。東南植物楽園では1993年に最初の発生を確認し、その後2000年から毎年のように初夏になると成虫が飛来、産卵を行い発生が確認されている。

(2) キンコウボク *Michelia champaca*

モクレン科の植物。東南植物楽園には2001年に観賞用として導入された。嗜好性はギョクランに比べて低く、幼虫も少ない。

3. ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous loochooana*

(1) リュウキュウウマノスズクサ *Aristolochia liukiuensis*

沖縄市知花城跡にリュウキュウウマノスズクサの自生があり、数度観察に行ったが卵・幼虫とも見ることはできなかった。幼虫は浦添城跡で4月に見ることができた。

4. シロオビアゲハ *Papilio polytes polytes*

(1) ヒラミレモン (シクワシャー) *Citrus depressa*

ほぼ1年中卵・幼虫が観察できるミカン科の果樹で、一般にシークワサーの呼び名で親しまれている。成虫の個体数を維持する食草は、多いのにこしたことはない。食草が多量に枯死してしまったら、どうなるのだろう。ここ数年ミカンの生木を食害するゴマダラカミキリ(カミキリムシ科)による加害が広がり、特に中南部で樹齢を重ねた木が枯れたとよく耳にする。シロオビアゲハは他のミカン科で発生をすることが出来るので、急には個体数を減らすとうことはないかも知れない。しかし、今後ヒラミレモンの栽培減少は、利用するアゲハチョウの仲間の発生にかなり影響するものと考ええる。

(2) ブンタン (ザボン) *Citrus grandis*

ミカン科の果樹。観賞用に民家の庭で良く栽培されていたが、最近は少なくなった。

(3) コブミカン *Citrus hystrix*

ベトナムの有名料理トムヤムクンの材料に使用されるミカン科の植物。園には2001年に導入された。葉をもむと柑橘系特有の香りがする。嗜好性は高く、初夏から秋にかけては頻繁にコブミカンを見てないと、瞬く間に葉が食べられてしまう。

5. ナガサキアゲハ *Papilio memnon thunbergii*

(1) ヒラミレモン *Citrus depressa*

前述したミカン科の植物。発生はこの植物に大きく依存していると思われ、大型の蝶なので成虫になるまで多くの葉が必要と考える。ナガサキアゲハは、近年中南部で成虫数が少なくなってきたと思う。シロオビアゲハの幼虫が明るい場所を好むのに対し、本種の幼虫は葉陰などの暗い場所を好む。

(2) ブンタン (ザボン) *Citrus grandis*

前述したミカン科の果樹。

6. モンキアゲハ *Papilio helenus nicconicolens*

(1) ヒラミレモン *Citrus depressa*

何種かのアゲハ属の食草なのだが、本種の中心となる食草ハマセンダンが南部に野生してなくて、ヒラミレモンが代用食なのであろう。成虫の記録は沖縄島北部に比べて南部は少ない。

(2) ハマセンダン *Euodia meliifolia*

国頭マージの赤土に良く育つミカン科の自生の樹木。春から秋にかけて卵・幼虫は見つかる。

シロチョウ科

7. ウスキシロチョウ *Catopsilia Pomona pomona*

(1) センナ・スルフレア *Senna sulfulea*

2001年に東南植物楽園の職員がタイから種子を導入した黄色い花を咲かせるマメ科の植物。2004年11月に葉を食する幼虫を確認した。

(2) ナンバンサイカチ *Cassia fistula*

古くから沖縄に導入されたインド原産のマメ科の植物。黄色い花を垂れ下がるように咲かせることからゴールデンシャワーの名前がある。卵、幼虫は新芽・新葉があるときは常に付いている状態で本種のメインの食草である。

(3) ハネセンナ (ハネミセンナ) *Cassia alata*

西インド諸島原産のマメ科の植物。長さ30-40cmの高さにローソク状に黄色い花を咲かせるのでキャンドル・ブッシュ、キャンドル・スティックの名前が付いている。沖縄の熱帯花木ブームで家庭での栽培が増えた。公園でもよく見かける。ナンバンサイカチに次いで卵・幼虫がよく見つかる。

(4) ピンクシャワー *Cassia grandis*

2001年に東南植物楽園の職員がタイから種子を導入、ピンクの花を咲かせるマメ科の植物。この植物は古くから沖縄に導入されていて、本種の食草として知られている。

(5) レインボーシャワー *Cassia "Rainbow Shower"*

2001年に東南植物楽園の職員がタイから苗を導入した白からピンクの花を咲かせるマメ科の植物。ジャワセンナ *Cassia javanica* とナンバンサイカチとの交配種。園芸植物として東南アジアでは街路樹、公園樹としてよく栽培されているという。沖縄に導入され栽培されているが数は少ないようで、開花している木も余り見かけない。

8. ウラナミシロチョウ *Catopsilia pyranthe pyranthe*

(1) ウラゲモクセンナ *Cassia spectabilis*

沖縄には1971年に導入されたマメ科の植物。園では長い間栽培されていたのだが、台風で倒され枯れてしまった。

(2) アメリカセンナ *Cassia hebecarpa*

沖縄には、最近導入された南米原産マメ科の植物。園には1995年に栽培展示され、現在多数が栽培されている。繁殖は実生で簡単に行うことが出来る。本種はたいてい4~6月の初夏から夏の始めに飛来し産卵、それから世代交代を繰り返していると思われる。また、暖かい年には冬を越し、春から世代交代が観察されている。

(3) ハネセンナ *Cassia alata*

前述したウスキシロチョウの食草。幼虫が観察される機会は少ない。

9. キチヨウ *Eurema hecabe hecabe*

(1)モクセンナ *Cassia surattensis*

東南アジア、インド原産のマメ科の植物で、沖縄には古くに導入された。公園や街路樹、庭園樹として利用されていて市街地に多い。本種の卵・幼虫ともほぼ年間を通して観察されている。

(2)リュウキュウクロウメモドキ *Rhamnus liukuensis*

沖縄の低山地に多く自生するクロウメモドキ科の樹木。食草の新芽、新葉がでる春から初夏、秋に本種の卵・幼虫が観察されている。

(3)ピンクシャワー *Cassia grandis*

ピンクシャワーはウスキシロチョウの食草として紹介したマメ科の植物。本種の卵・幼虫の観察例は少ない。

(4)ビルマネム(ビルマゴウカン) *Albizia lebbek*

沖縄には明治43年台湾から導入されたマメ科の樹木で、主に庭園、公園、街路樹として活用されている。卵・幼虫とも連続して観察されることがある。

(5)レインボーシャワー *Cassia "Rainbow Shower"*

ウスキシロチョウの食草として紹介したマメ科の植物。卵・幼虫の観察例は少ない。

(6)センナ・スルフレア *Senna sulfulea*

ウスキシロチョウの食草として紹介したマメ科の植物。卵・幼虫の観察例は少ない。

10. ツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe liukuensis*

(1)ギョボク *Crataeva falcata*

沖縄本島では南部の海岸から低山地に多く自生するフウチョウソウ科の植物。卵・幼虫は気温の低い時期を除き年間を通して観察される。

11. モンキチョウ *Colias erate poliographys*

(1)シナガワハギ *Melilotus suaveolens*

春から夏にかけて路傍や荒地に繁茂するマメ科の1年草。本種は食草の多い荒地に多く、卵・幼虫が観察されるが、探すのは困難を伴う。

12 モンシロチョウ *Artogeia rapae crucivora*

(1)キャベツ *Brassica oleracea var. capitata*

沖縄では普通に栽培されているアブラナ科の野菜。キャベツ=モンシロチョウと言われるほどである。

(2)ロケット *Eruca vesicaria subsp. sativa*

この植物は、東南植物楽園でハーブの一種として栽培した地中海沿岸を原産地とするアブラナ科の植物。

(3)ノウゼンハレン *Trapaeolum majus*

コロンビア、ボリビア原産のノウゼンハレン科の植物で草花として良く栽培されている。卵・幼虫の観察例は少ないが、園に草花用として植えたところ、たくさんの幼虫が見つかったことがある。また、知人の話によると、学校の花壇に植えてあったこの植物の花・葉を食べる幼虫が無数にいた、という話を聞いたことがある。

マダラチョウ科

13 オオゴマダラ *leuconoe clara*

(1)ホウライカガミ *Parsonsia laevigata*

沖縄各島々に山野に広く分布するキョウチクトウ科の植物。主に琉球石灰岩地帯に育つ植物の一つで、より海に近く少しの土壌のある岩場で常に明るい場所を好む。東南植物楽園は成虫展示のためホウライカガミを数多く栽培し、常に卵・幼虫・蛹のいる状態にしているが、野外に植物は育っているので飼育外の成虫が飛来し、ほぼ1年中産卵を繰り返している。

14 カバマダラ *Anosia chrysippus chrysippus*

(1)トウワタ *Asclepias curassavica*

南米原産のガガイモ科の植物で、草花として学校の花壇などでよく栽培されている。沖縄では多年草で、株は冬場も枯れることなく育つ。トウワタは本種の展示のため2002年頃より栽培してきた。卵・幼虫は5月頃より12月まで観察できる。2004年2月現在、幼虫・成虫がいることから、暖かい年には世代交代を繰り返し、植物のよく育つ夏場にむけて個体数を増やしていくと考えられる。

15 ツマムラサキマダラ *Euploea mulciber barsine*

(1)オオイタビ *Ficus pumila*

沖縄各地に広く分布するクワ科の植物。蔓性の木本で形が整えやすいことから、観葉植物や庭の垣根、石垣の緑化などに使われている。卵・幼虫はオオイタビの新芽・新葉が豊富にある初夏から夏にかけて良く見つかった。

(2)リュウキュウテイカカズラ *Trachelospermum asiaticum*

沖縄各地に広く分布する蔓性木本のキョウチクトウ科の植物。琉球石灰岩に良く育ち、群落をつくる。卵・幼虫はリュウキュウテイカカズラの新芽・新葉の多いときに見つかった。

(3)ホウライカガミ *Parsonsia laevigata*

オオゴマダラ成虫展示のためホウライカガミを栽培していることは前述したが、多くはないが、本種の幼虫が新芽を食しているのを見つけることがある。

(4)オウゴンガジュマル *Ficus microcarpa cv. golden leaf*

東南植物楽園は台湾から苗を導入、展示に使っている。従来のガジュマルに比べて新葉は全て黄緑色になり、観賞用として沖縄各地で栽培されている。幼虫は希に見つかる。

16 リュウキュウアサギマダラ *Ideopsis similes similis*

(1)ツルモウリンカ *Tylophora tanakae*

沖縄の各島々の海岸に普通に見られる蔓性のガガイモ科の植物。成虫展示のためツルモウリンカを栽培しているが、年間を通して成虫が飛来し卵・幼虫が見られる。夏場はたくさんの卵を産むのでツルモウリンカの葉が全て食べられることもあった。

シジミチョウ科

17 イワカワシジミ *Artipe eryx okinawana*

(1)クチナシ *Gardenia jasminoides*

沖縄ではちょっとした森だとたいてい生えているアカネ科の植物。イワカワシジミの幼虫は、

春のクチナシの開花前に蕾、夏から秋にかけては果実を食す。

18 ウラナミシジミ *Lampides boetieus*

(1)フジマメ *Lablab purpureus*

アフリカ、旧熱帯原産のマメ科の植物で、若鞘^{さや}を食用として栽培する。卵は蕾や若い鞘に産卵し、鞘の中の種子が柔らかいうちに食す。春先にエンドウの鞘を収穫するときに、鞘の中に小さな幼虫がいるのはたいていウラナミシジミ。フジマメ、エンドウ、ソラマメ、アズキ、インゲンの開花する時期にはウラナミシジミが周辺を飛びまわる。

(2)タイワンクズ *Pueraria montana*

タテハチョウ科リュウキュウミスジの食草として紹介した。ウラナミシジミは秋に開花する蕾や花に産卵し、食す。

19 シルビアシジミ *Zizina otis riukuensis*

(1)マルバダケハギ *Alysicarpus vaginalis*

沖縄各地の明るい草地や荒れ地に自生するマメ科の植物。幼虫は小さいので見つけにくい。

(2)ヤハズソウ *Kummerowia striata*

芝生の中などによく見つかるマメ科の植物。芝生の中にヤハズソウがあるとたいていシルビアシジミが見つかる。

20 タイワンクロボシシジミ *Megisba malaya sikkima*

(1)アカメガシワ *Mallotus japonicus*

沖縄各地に山野に自生するトウダイグサ科の植物。アカメガシワは初夏に花を咲かせるので、この時期が卵・幼虫の観察に最適。かなり小さいので観察するのには注意を要する。

21 ムラサキシジミ *Narathura japonica*

(1)オキナワウラジロガシ *Quercus miyagii*

山地性のブナ科の植物で、日本一大きなドングリがつく。新葉がでる春に幼虫は見つけやすい。

22 ムラサキツバメ *Narathura bazalus turbata*

(1)マテバシイ *Lithocarpus edulis*

山地性のブナ科の植物で、尾根沿いに群落が見られる。新葉がある時には幼虫が見つけやすい。

23 ヤマトシジミ *Pseudozizeeria maha okinawana*

(1)カタバミ *Oxalis corniculata*

路傍や畑、民家の庭などあるゆるところに自生するカタバミ科の植物。いろいろなところでカタバミは生育するので、ヤマトシジミの個体数も多く、沖縄のシジミチョウの代表的存在だ。

タテハチョウ科

24 アカタテハ *Vanessa indica indica*

(1)ノカラムシ *Boehmeria nivea*

沖縄各地に広く分布するイラクサ科の植物で、明るい場所を好み、民家の近くにも多い。卵・成虫が見られるのは秋から初夏にかけてで、幼虫は葉を綴^{つづ}り、巣を作るので見つけやすい。

夏の期間は成虫・幼虫とも大変少ない。

25 イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas mabella*

(1)オオイタビ *Ficus pumila*

マダラチョウ科ツマムラサキマダラの項目に登場した植物。オオイタビの新芽・新葉がでる全ての時期で卵・幼虫が観察される。民家の塀^はに這わしてあると観察も楽で見つけやすい。

(2)ガジュマル *Ficus microcarpa*

沖縄各地に普通に分布するクワ科の樹木。日陰を作りやすい枝振りなので民家の庭や公園、街路樹として盛んに使われている。卵・幼虫とも大きな木では見つけにくく、小さな木や大きな木のわきからでた子株で見つけやすい。

(3)イヌビワ *Ficus erecta*

沖縄の低山地に普通に分布するクワ科の樹木。オオイタビと同じように1年を通して卵・幼虫とも観察され、食草も身近にあり飼育もしやすい。

(4)ハマイヌビワ *Ficus virgata*

沖縄各地で普通に見ることのできるクワ科の樹木。卵・幼虫は新葉が多く出る初夏に多く観察されている。

(5)オウゴンガジュマル *Ficus microcarpa cv. golden leaf*

マダラチョウ科ツマムラサキマダラの項目に登場した植物。幼虫の観察例は少ない。

(6)ホソバムクイヌビワ *Ficus ampelas*

沖縄各地で普通に見ることのできるクワ科の樹木。ハマイヌビワは樹肌が白っぽく、ホソバムクイヌビワは黒っぽいのですぐ区別が出来る。新芽・新葉の多い時期に幼虫は観察できる。

(7)シダレガジュマル *Ficus benjamina*

インド原産のクワ科の観賞用植物、園芸名ベンジャミナで流通している。新芽の多い初夏に見つかる。

26 ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius hyperbius*

(1)リュウキュウコスミレ *Viola yedoensis*

沖縄各地の野原、路傍で普通に見かけるスミレ科の植物。道端でスミレの葉を求めて歩きまわる幼虫をよく見かける。学校の花壇に植えられているパンジーの葉を食べるのは本種が犯人。

27 フタオチョウ *Polyura eudamippus weismanni*

(1)クワノハエノキ *Celtis boninensis*

沖縄各地の低山地に分布するクワ科の樹木。御嶽林として残された森に大きな木が残っていることが多い。本島北部が従来生息地だが、近年中南部での記録も多くなってきた。

28 メスアカムラサキ *Hypolimnas misippus*

(1)スベリヒユ *Portulaca oleracea*

畑の周囲、路傍で普通に生えているスベリヒユ科の植物。本種は、初夏から秋にかけて南方から毎年沖縄に飛来し世代交代を繰り返していると言われている。

29 リュウキュウミスジ *Neptis hylas luculenta*

(1)ナタマメ *Canavalia gladiata*

鞘^{さや}を食用として栽培する熱帯アジア原産のマメ科の植物。多くの観察例はない。葉に独特の

巣や糞塔を作るので見つけやすい。

(2)イルカンダ *Mucuna macrocarpa*

沖縄の山野に自生するマメ科の蔓植物。イルカンダの群生する地域に本種は多い。比較的幼虫も見つけやすい。

(3)タイワंकズ *Pueraria montana*

沖縄の山野に自生し、時に大群落を作る。卵・幼虫は、林縁部に^は這う葉からほぼ年間を通して見つかる。

(4)シカクマメ *Psophocarpus tetragonolobus*

シカクマメは東南アジア原産のマメ科の植物。沖縄では鞘を野菜として利用するため、よく栽培されている。幼虫は夏から秋にかけて観察された。

(5)ヒスイカズラ *Strongylodon macrobotrys*

東南植物楽園は1996年に苗を導入し、現在も生育良好で毎年翡翠色の花を咲かせている。ルソン島原産のマメ科の植物。幼虫は夏に葉を食しているところを見つけた。

30 ルリタテハ *Kaniska canace ishima*

(1)オキナワサルトリイバラ *Smilax china*

沖縄の山野に普通に見られるユリ科の蔓性植物。幼虫は葉裏にすることが多いので、見落とすことがある。初夏に食草の新葉が数多く出るので、この時期に幼虫も多い。

テングチョウ科

31 テングチョウ *Libythea celtis amamiana*

(1)クワノハエノキ *Celtis boninensis*

フタオチョウの食草で紹介した植物。テングチョウは、クワノハエノキの新芽がでる早春に産卵し、葉が展開する頃には数多くの成虫が見られる。その後、台風や干ばつなどの木にショックがある時に新芽がでて、幼虫をみることがあるが、たいていは秋遅くの新芽に幼虫がついていることが多い。

ジャノメチョウ科

32 ウスイロコノマチョウ *Melanitis leda leda*

(1)イトアゼガヤ *Leptochloa panicea*

畑地や低地に普通に生えるイネ科の植物。ウスイロコノマチョウの幼虫は多くのイネ科から見つかるが、見つけやすいのは稲そのもの。

(2)メヒシバ *Digitaria ciliaris*

畑地や低地に普通に生えるイネ科の植物。イトアゼガヤとともに畑地の雑草。

(3)ススキ *Miscanthus sinensis*

明るい場所だったらどこでも育つイネ科の植物。

33 リュウキュウヒメジャノメ *Mycalesis madjicosa amamiana*

(1)ススキ *Miscanthus sinensis*

前述したイネ科の植物。林道に生える育ちの悪いススキに幼虫はよく見つかる。

(2)チガヤ *Imperata cylindrica*

明るい場所に群落をつくるイネ科の植物。幼虫は明るい場所よりやや暗いところに育つチガヤについていることが多い。

セセリチョウ科

34 アオバセセリ *Choaspes benjaminii japonica*

(1)ヤンバルアワブキ *Meliosma pinnata*

沖縄の山地に野生するアワブキ科の植物。ヤンバルアワブキは、沖縄市の知花付近から北部にかけて多い。卵・幼虫は初夏に多く見つかった。

35 オオシロモンセセリ *Udaspes folus*

(1)ゲットウ *Alpinia zerumbet*

沖縄各地の野生するショウガ科の植物。葉を餅やその他食物の加工品を包む材料として、栽培が盛んに行われるようになった。幼虫は初夏に見つけやすく、特に民家に育つものや、公園などの明るい場所がよい。

(2)レッドジンジャー *Alpinia purpurata*

南太平洋諸島モルッカ～メラネシア、ミクロネシア原産のショウガ科の植物。別名アカボケットウとも呼び、花が綺麗なので切り花として栽培され、観賞用として公園などでも植えられている。幼虫は夏に見つかった。

36 クロセセリ *Notocrypta curvifascia curvifascia*

(1)ゲットウ *Alpinia zerumbet*

前述したオオシロモンセセリの食草。幼虫は、林縁や林内に育つもので見つけやすく、特に初夏は数多く、簡単に見つけることが出来る。

37 クロボシセセリ *Suastus germius germius*

(1)オウギヤシ *Borassus flabellifer*

インド、スリランカ原産のヤシ科植物。東南植物楽園では園内に観賞用として栽培していて、園外ではこのヤシを見かけたことはない。幼虫は春と夏に見つかった。

(2)ユスラヤシモドキ *Archontophoenix cunninghamiana*

オーストラリア原産のヤシ科植物。園では観賞用として栽培していて、園外ではこのヤシを見かけたことはない。幼虫は秋に見つかった。

(3)ベニジュロ *Latania borbonica*

アフリカの東側にあるレユニオン、モーリシャス原産のヤシ科植物。幼虫は春に見つかった。

(4)キイジュロ *Latania verschaffeltii*

アフリカの東側にあるロドリゲス、モーリシャス原産のヤシ科植物。幼虫は春に見つかった。

(5)カンノンチク *Rhapis excelsa*

中国原産のヤシ科植物で、観賞用の園芸植物として盛んに栽培されている。卵、幼虫は年間を通して見ることができ、飼育や観察も行いやすい。

(6)シンノウヤシ *Phoenix roebelenii*

インドシナ、タイ原産のヤシ科の植物。沖縄では観賞用として公園、庭園木、街路樹として

よく栽培されている。卵・幼虫は年間を通して見つかり、鉢植えとして栽培すると観察も行いやすい。

(7) トックリヤシ *Mascarena lagenicaulis*

レユニオン、モーリシャス島原産のヤシ科の植物。沖縄では観賞用として公園、庭園木、街路樹としてよく栽培されている。幼虫は秋に見つかった。

(8) ニューカレドニアフィジーノヤシ *Veitchia arecina*

ニューカレドニア原産のヤシ科植物。園内に観賞用として栽培していて、園外では見たことはない。幼虫は冬に見つかった。

(9) シュロチク *Rhapis humilis*

中国原産の観賞用ヤシ科植物。卵、幼虫は年間を通して見ることができ、飼育や観察も行いやすい。

(10) ビロウ *Livistonachinensis var. subglobosa*

沖縄各地の山野に自生するヤシ科植物。塩害や乾燥にも強いので海に近い学校、街路、公園などで盛んに使われている。幼虫は夏に見つかった。

(11) ナツメヤシ *Phoenix dactylifera*

イラン、イラク、アフリカ北部の砂漠地帯に原産するヤシ科植物。沖縄では観賞用として植えられているが、多くはない。幼虫は夏から秋にかけて見つかった。

(12) ヒメヤハズヤシ *Ptychosperma elegans*

オーストラリア原産のヤシ科植物。観賞用として栽培されるが、沖縄では少ない。幼虫は夏に見つかった。

38 チャバナセセリ *Pelopidas mathias oberthueri*

(1) チガヤ *Imperata cylindrica*

沖縄各地の原野に自生するイネ科の植物。幼虫は葉を綴^{つづ}って巣を作り、秋によく見つかる。

(2) ススキ *Miscanthus sinensis*

沖縄各地に自生するイネ科の植物。幼虫は秋に多く、見つけやすい。

(3) セイバンモロコシ *Sorghum halepense*

地中海沿岸を原産とするイネ科の帰化植物。夏から秋にかけて畑や路傍に雑草として生えるので幼虫は、この時期に見つかる。

39 バナナセセリ *Erionota torus*

(1) サオトメショウ *Musa ornata*

モーリシャス諸島原産のバショウ科の植物。沖縄では観賞用として栽培されるが、切り花としても少ないながらも出荷されている。幼虫は夏と冬に見つかった。

(2) ピトゴバナナ *Musa sp.*

台湾から導入されたバショウ科の植物。このバナナは園だけで栽培されているようで、園外では見たことがない。果実は熟すとねっとりした甘さがあり、果肉には種子があることがある。幼虫はよく見つかる。

40 ユウレイセセリ *Borbo cinnara*

(1) オガサワラスズメノヒエ *Paspalum conjugatum*

南米原産のイネ科の帰化植物。幼虫は、明るい場所よりやや半日陰で育つものでよく見つかる。

(2) パラグラス *Brachiaria mutica*

北米原産のイネ科の植物。沖縄各地で家畜の飼料用として栽培されているが、野生化している。幼虫は秋から冬にかけて見つかった。

(3) イトアゼガヤ *Leptochloa panicea*

沖縄各地の畑や路傍に普通に生える自生のイネ科植物。幼虫は秋に見つかった。

(4) セイバンモロコシ *Sorghum halepense*

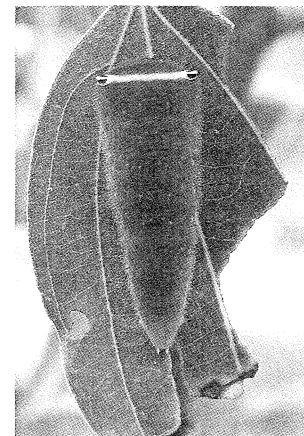
チャバナセセリで前述したイネ科植物。幼虫は冬に見つかった。

(5) メヒシバ *Digitaria ciliaris*

沖縄各地の畑や路傍に普通に生える自生のイネ科植物。幼虫は春に見つかった。

(6) オオササガヤ *Microstegium ciliatum*

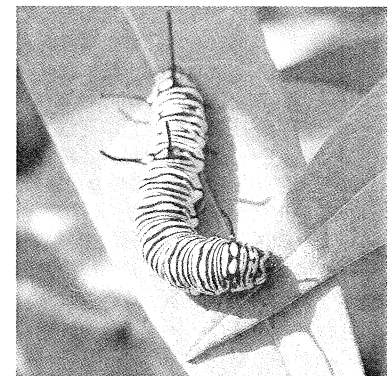
沖縄各地の低地から山地にかけて自生するイネ科の植物。幼虫は夏に見つかった。



ジャワニッケイの葉上にいる
アオスジアゲハの終令幼虫



バナナセセリの幼虫の巣



トウワタ葉上のカバマダラ終令幼虫



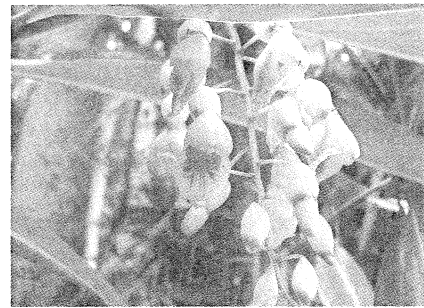
センナ・スルフレアを食す
ウスキシロチョウの幼虫



アメリカセンナ



ギンコウボク



ゲットウ



タブノキ



ユスラヤシモドキ

参考文献

- 1) 東清二監修(2002)琉球昆虫目録, 沖縄生物学会.
- 2) 比嘉正一(1993) 東南植物楽園内の蝶類(1982年～1983年) 琉球の昆虫(15): 60～72.
- 3) 比嘉正一(1997) 東南植物楽園内の蝶・セミ・トンボ(1990～1992年), 琉球の昆虫(17): 31～37.
- 4) 比嘉正一(2002) 東南植物楽園(沖縄市)で蝶のメモを通しての成果から, あやみや 11:34～39.
- 5) 比嘉正一(2002) 2000年に沖縄島で記録した蝶, 琉球の昆虫(21): 49～55.
- 6) 比嘉正一(2003) オオゴマダラ *Idea leuconoe* の飼育—これから飼育したい方のために—, あやみや 12:1～5.
- 7) 比嘉正一(2003) 蝶類の記録(1997年, 1998年), 琉球の昆虫(22): 12～23.
- 8) 比嘉正一(2003) 蝶類の記録(1999年), 琉球の昆虫(22): 24～32.
- 9) 比嘉正一(2004) 蝶類の記録(2001年, 2002年), 琉球の昆虫(24): 51～56.
- 10) 比嘉正一(2004) 蝶類の記録(2003年), 琉球の昆虫(25): 39～51.
- 11) 星川清親・千原光雄(1970) 食用植物図説, 女子栄養大学出版部.
- 12) 池原直樹(1979, 1989) 沖縄植物野外活用図鑑全 10 巻, 新星図書出版.
- 13) 沖縄園芸百科(1985) 新報出版.
- 14) 園芸植物大事典 1-6 巻(1988) 小学館.
- 15) 仲須賀常雄・高山正裕・金城道男(1992) 沖縄のヤシ図鑑, ボーダーインク.
- 16) 初島住彦・天野鉄夫(1994) 琉球植物目録, 沖縄生物学会.
- 17) 熱帯・亜熱帯都市緑化植物図鑑(1996) (財) 海洋博覧会記念公園管理財団.
- 18) 坂崎信之編著(1998) 日本で育つ熱帯花木植栽辞典, アボック社.
- 19) 農作物病害虫診断ハンドブック(2001) 沖縄県植物防疫協会.

沖縄市東部の電力供給とラジオの普及について

川副 裕一郎

はじめに

2004 年秋、市内小学校から「社会科の授業の関連として子どもたちの祖父母が子供だったころの、生活に関わる資料が見たい」との申し出が多くあった。現在、60 歳代の方をモデルとして説明を行っているが、資料が使われていた時期については地域的な差があるものと思われる。しかし、当時の生活や娯楽について、子供たちへの説明に適したものがまとめられていないため、作る必要があると感じた。

本稿では沖縄市という大きな枠組みではなく、字単位での電力供給とラジオの普及について分りやすく説明するための基礎資料となるものを目指したい。特に電力供給とラジオの普及に焦点を当てたのは、聞き取りの行いやすさと、生活への密着度が高く、これらのことから戦後復興期の沖縄市の様子が明らかにできるのではと考えたからである。

本稿は 1. 電力供給について 2. ラジオ普及について 3. 地域の聞き取り 4. まとめ から構成されている。1, 2. については沖縄島や沖縄市を単位として戦前戦後の電力供給とラジオの普及についてまとめ、3. の聞き取りによって、主に沖縄市東部（泡瀬地区周辺）で電力とラジオの普及が生活にどのような変化をもたらしたのか、また、地域によって変化の差異がどのように生じていたのかについて記述したい。

1. 電力供給について

①戦前

沖縄電力調査課によると、沖縄島ではじめて電気が通ったのは 1910（明治 43・那覇と首里）年とされる。最終的に沖縄島全域で電力が使用される状況になるのが 1970（昭和 45）年である（註 1）。太平洋戦争中、沖縄で地上戦が展開され、電気・ガスなどの設備が破壊されたことを考えても、沖縄島内で 60 年の格差があったことは、児童生徒への説明の点で注意すべきであろう。

戦前の電力の使用状況については、『資料 沖縄経済 20 年史』に、「発電施設も那覇、名護、平良、石垣に火力発電所があって、その周辺の限られた地域に供給、それも主として点灯用で点灯状況は非常に低かった」とある。聞き取りによると沖縄市で電気が通っていた場所は、泡瀬周辺のみだったようである。

②戦後～復帰前

沖縄市では、第 2 次大戦直後の住宅への配電に関する資料が乏しい。これは初期の住宅への配電が、軍の発電所から、もしくは米軍払い下げの小型発電機によるものだったからと思われる。沖縄市水道部『沖縄市水道 30 年史』では、1947 年 3 月に、「旧越来村嘉間良に米軍払い下げの小型発電機によって電灯がともされ、劇場が建ち」とある。沖縄電力調査課の年表にも、

沖縄市立郷土博物館紀要第13号

あやふや

2004年

沖縄市立郷土博物館

あやみや

第 13 号

も く じ

リュウキュウヤマガメ
〔過去 5 年間の調査より〕

大 谷 勉 (1)
喜屋武 優 子

沖縄島の蝶類食草について
—1992年からの記録から—

比 嘉 正 一 (17)

沖縄市東部の電力供給とラジオの普及について

川 副 裕一郎 (29)

沖縄市池原で確認されたシシ穴の概要について

比 嘉 清 和 (36)

エイサーにみる青年会活動とその展開

与那嶺 江利子 (42)

本誌のタイトルに付された「あやみや」という言葉は『おもろさうし』から引用したもので「美しい庭」の意味をもつものです。調査研究のみならず博物館の活動が、美しい庭のように多くの花が咲き誇ることを願って命名されています。

■表2 日本列島縦断エイサーキャラバンスケジュール■

都市	日 程	派遣青年会	会 場
札 幌	4 / 27 ~ 28	沖縄市越来青年会	丸井札幌本店、市内各地
熊 本	5 / 11 ~ 12	宜野湾市宜野湾区青年会	市内各地
広 島	5 / 25 ~ 26	沖縄市登川青年会	福屋広島駅前店、市内各地
仙 台	6 / 1 ~ 2	糸満市武富青年会	藤崎百貨店、市内各地
大 阪	6 / 8 ~ 9	与那城町屋慶名青年会	阪神百貨店、市内各地
名古屋	6 / 22 ~ 23	北谷町栄口青年会	名古屋三越栄本店、市内各地
郡 山	6 / 22 ~ 23	具志川市赤野青年会	うすい百貨店、市内各地
松 山	6 / 29 ~ 30	名護市青年団やんばる船	市内各地
岡 山	7 / 12 ~ 13	嘉手納町千原エイサー保存会	市内各地
神 戸	7 / 14	嘉手納町千原エイサー保存会	市内各地
東 京	7 / 27 ~ 28	沖縄市胡屋青年会	伊勢丹新宿本店、市内各地
金 沢	8 / 3 ~ 4	南風原町津嘉山青年会	市内各地
新 潟	9 / 7 ~ 8	読谷村座喜味青年会	新潟伊勢丹、市内各地
福 岡	9 / 14 ~ 15	沖縄市園田青年会	市内各地
青 森	9 / 28 ~ 29	勝連町平敷屋青年会	市内各地

■表3 沖縄市エイサーマンズリーイベント日程■

日 付	イ ベ ント	場 所	備 考
7月20日(土)	エイサー資料展 エイサー体験	エイサー会館 パルミラ通り	海の日
7月21日(日)	風山祭	山内中学校	山内地区
7月30日(火)	エイサーシンポジウム	沖縄市民小劇場あしびなー	
8月3日(土)	全国エイサー大会	沖縄市野外ステージ	
8月4日(日)	エイサー道じゅねー	胡屋地区周辺	
8月7日(水)	エイサー体験	エイサー会館	観光週間
8月11日(日)	エイサー道じゅねー予備		
8月18日(日)	沖縄全島子どもエイサーまつり	農民研修センター	
8月21日(土) ~23日(金)	旧盆エイサー道じゅねー	市内各地	旧盆
8月31日(土)	沖縄市青年まつり	市陸上競技場	前夜祭
9月1日(日)	沖縄全島エイサーまつり	市陸上競技場	市主催
9月22日(日)	かりゆしエイサーまつり	農民研修センター	登川地区

■表4 平成14年度県外派遣イベント及び青年会■

日 付	派遣イベント名	派遣青年会	人数	主 催
4月26~29日	全国エイサー道じゅねー(札幌)	越来青年会	30	沖縄県
5月24~27日	全国エイサー道じゅねー(広島)	登川青年会	30	沖縄県
7月26~28日	全国エイサー道じゅねー(東京)	胡屋青年会	30	沖縄県
9月7~9日	函館昆布フェスタ	知花青年会	10	函館市
9月13~15日	全国エイサー道じゅねー(福岡)	園田青年会	30	沖縄県
9月14~16日	町田エイサー祭り	諸見里青年会	45	町田市
10月12~14日	小松どんどん祭り	山里青年会	20	小松市

○ 執筆者

- 大 谷 勉 高田爬虫類研究所沖縄分室
郷土博物館協議会委員
- 喜屋武 優 子 (株)沖縄環境保全研究所
- 比 嘉 正 一 (有)東南植物楽園学芸員
郷土博物館協議会委員
- 与那嶺 江利子 沖縄市立中央公民館
郷土博物館友の会会員
- 比 嘉 清 和 郷土博物館学芸員
- 川 副 裕一郎 郷土博物館学芸員

あやみや 第13号

発行年月日／平成17年(2005年)3月31日

編集発行／沖縄市立郷土博物館

〒904-0031 沖縄県沖縄市上地2-19-6 TEL (098) 932-6882

印 刷／(有)曙印刷

〒904-2172 沖縄県沖縄市泡瀬4-31-15 TEL (098) 938-7884